

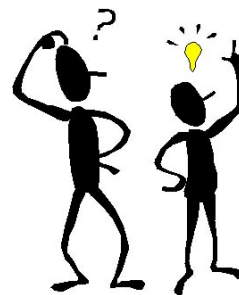
現状と課題、目指す姿(方向性)について

岡山市中心部における旭川水辺空間の現状



旭川水辺再生戦略会議の進め方について

- 岡山市中心部における旭川水辺空間再生の対象エリアの設定（百間川分流部～旭川桜橋付近）
- 現状と課題、関連する計画・事業や歴史を踏まえ、目指す姿（方向性）について議論
- 現状と目指す姿のギャップを埋めるため何ができるのか議論



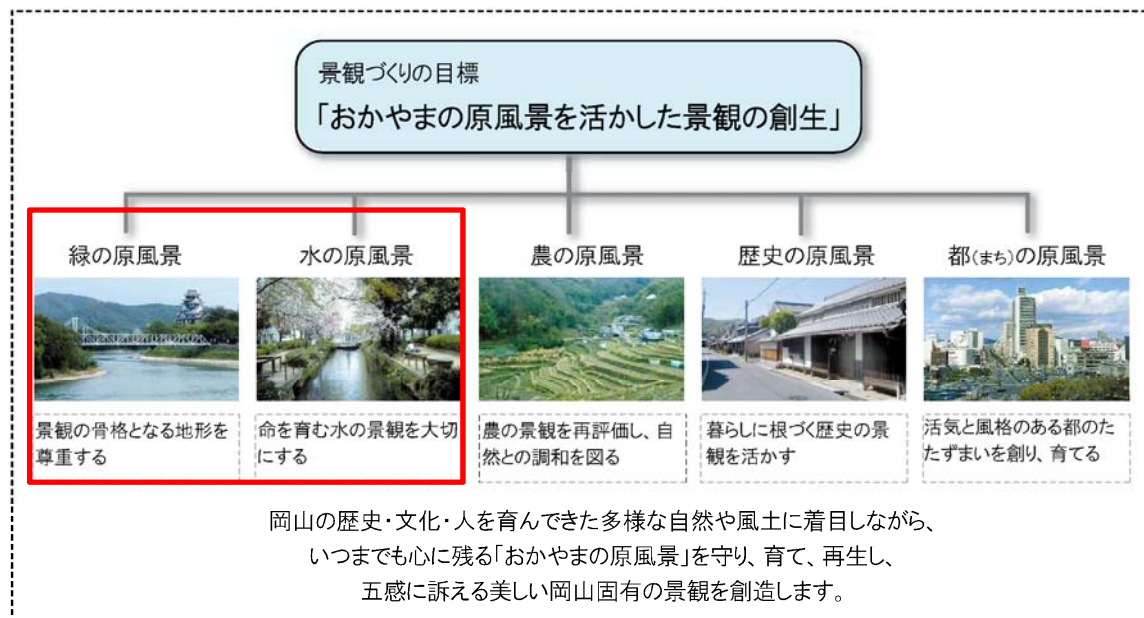
- 治水上の課題は何か？
- 利用上の課題は何か？
- 景観上の配慮事項は何か？

- 不足している視点、新たな視点はないか？

- 新たに何ができるのか？
- 各主体の取組の連携の可能性はないか？

岡山市景観計画（平成19年12月）

- 岡山市は平成19年6月に水と緑が魅せる心豊かな庭園都市を掲げている「岡山市都市ビジョン」を策定しており、主要な景観形成施策として、景観法にもとづき、平成19年12月に「岡山市景観計画」を定めている。
- 旭川は景観重要公共施設として位置づけられており、都市部においては親水・賑わい空間の創出や、歴史的遺構に配慮した河川景観の保全・形成を目指すこととなっている。岡山城周辺区域は旭川といった自然の美しさに馴染んだ景観保全が明記されており、風致地区にも指定されていることから、河川整備において景観を考慮する必要がある。



岡山市景観計画の概要（抜粋）



図1 景観重要河川区域図

岡山カルチャーゾーン

日本三名園の一つ岡山後楽園に岡山城。これら岡山県を代表する名所を中心とした周辺地域には、各種の文化施設が集まっており、この場所が「岡山カルチャーゾーン」と名付けられた。



夢二郷土美術館
竹久夢二の作品と資料を展示



岡山後楽園
江戸時代を代表する大名庭園の一つで特別名勝



岡山県立博物館
岡山県の歴史と文化を資料で紹介



岡山城
歴史を楽しく学べる体感アミューズメント施設



岡山県立図書館
豊富な資料と多様なメディアで生涯学習を支援



林原美術館
国宝・重要文化財を含む東洋の美術品を収蔵



ルネスホール
旧日銀岡山支店を文化芸術の創造拠点として再生



岡山シンフォニーホール
美しい感動の時をあなたに



岡山市立オリエント美術館
オリエントの美術品を収蔵・展示



岡山県立美術館
郷土ゆかりの芸術家の作品を収蔵・展示



岡山県天神山文化プラザ
県民の創作活動の発表と文化活動の練習の場



岡山市民会館
歴史と伝統があり、市民に親しまれるホール

出典：岡山カルチャーゾーン歩いて楽しいまいちづくり計画概要版
岡山カルチャーゾーン連絡協議会HP

岡山市都心創生まちづくり構想（平成26年3月）①

岡山市では、岡山市都市ビジョンに基づき、岡山城を中核とするカルチャーゾーンとして城下町に伝わる歴史遺産や文化資産を活かした、風格と魅力ある都市づくりを進めるための計画を平成26年3月に策定。

構想の位置付け

本構想は、岡山市の中長期的な都市づくりの指針である「岡山市都市ビジョン【新・岡山市総合計画】」を踏まえ、岡山市中心部（旧城下町エリア）における歴史資産・文化資産を活かしたまちづくりの基本的方針となるものである。今後、他の分野別計画等との整合性も図りつつ、互いに連携し構想の実現をめざしていく。

岡山市都市ビジョン

1. 多様で豊かな環境をいかす
 - ・水と緑の都市プロジェクト

美しい都市景観の形成

後楽園の背景保全や桃太郎大通り、市役所筋などの風格ある街並みの形成、屋外広告物の適切な規制により、市民の誇りとなる美しい景観の創出を図ります。

2. 街と田園のかたちを明確にする
 - ・生活交流都心創生プロジェクト

快適なにぎわい空間の創出

岡山市の顔であるカルチャーゾーン、表町、西川緑道公園などの魅力向上を図り、さらに、岡山駅周辺エリアと表町エリア間の回遊性を高めることにより、商業機能の強化を図ります。

（中略）

7. 文化力で岡山の誇りを高める
 - ・魅せる歴史と文化プロジェクト

岡山カルチャーゾーンの魅力向上

岡山の顔である岡山城、後楽園及び美術館等の文化施設が集積する岡山カルチャーゾーンの魅力向上のために、オリент美術館などの個々の施設のレベルを充実させるとともに、各施設間を有機的につなぎ回遊できる文化空間をつくります。

歴史文化資源の保存と活用

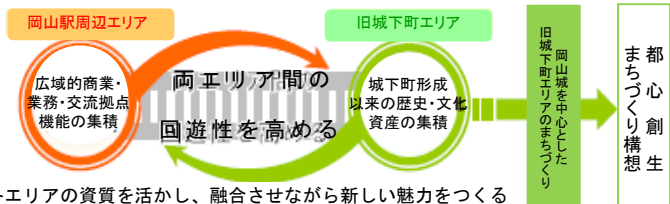
岡山の顔であり、まちのルーツである岡山城跡の城郭としての歴史的環境を整備し、その再生・保存を進めるとともに周辺整備や有効活用を図ります。

実現化

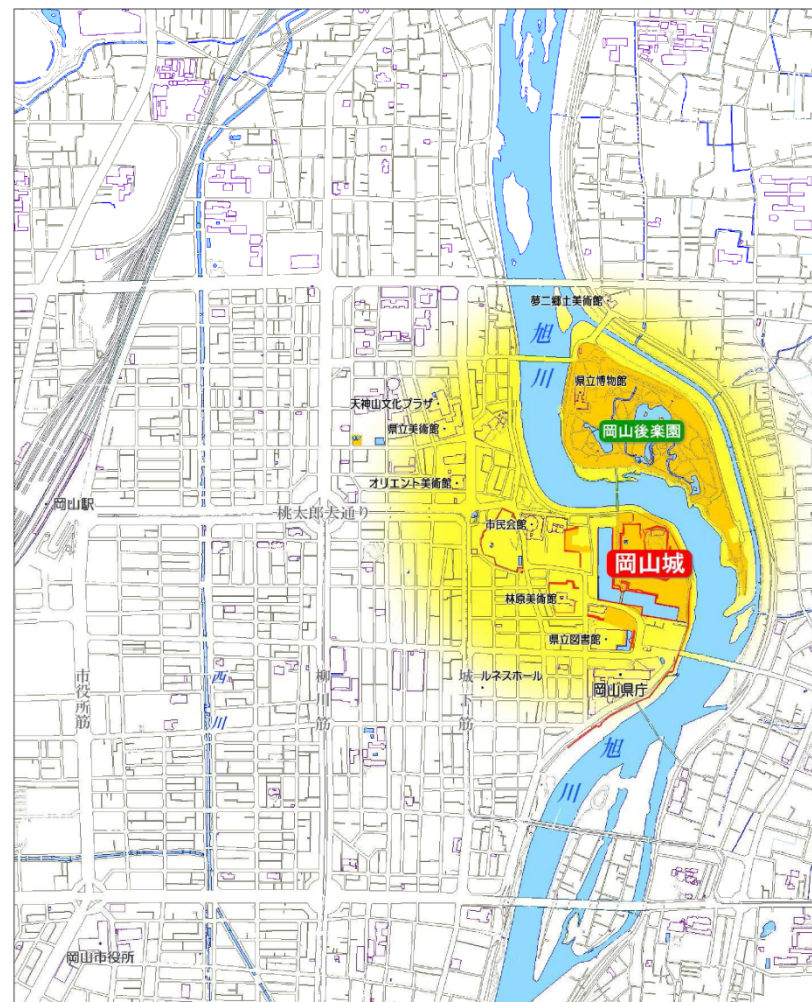
都心創生まちづくり構想

岡山市中心市街地活性化基本計画

計画の基本理念「様々な人が暮らし賑わう生活交流都心」



岡山市都心創生まちづくり構想対象エリア



岡山市都心創生まちづくり構想（平成26年3月）②

岡山市の進める「都心創生まちづくり構想」では、出石町から岡山城までの旭川堤防を活用した開放感及び爽快感あふれる水と緑の回遊路が位置づけられている。

都心創生まちづくり構想イメージ

【コミュニティ文化ゾーン】出石町・石関町界隈
 ・地区の特性（古い街並み・路地裏・伝統文化・先人の業績）を活かした賑わいの町

イメージ：菓子屋横丁（埼玉県川越市）

【文化芸術ゾーン】天神町
 ・県立美術館・オリエント美術館・天神山文化プラザ等の文化芸術施設が生み出す良好な都市景観と緑豊かな散歩路。

イメージ：百万石通り（金沢市）

【ウェルカムゾーン】岡山城西の丸・石山
 ・岡駅方面からの城（カルチャーゾーン）の入口。隣接する石山と一体的に城らしい雰囲気。
 ・旧本丸石垣越しに天守を遠望する新スポット。
 ・来訪者のための便利施設の設置を含め幅広く活用を検討
 ・旧内山下小学校校舎…耐震性がないことも踏まえつつ、市民・観光客が利用可能な活用方法を検討。

イメージ：しいのき迎賓館（旧石川県庁舎）と金沢城いもり堀

文化と芸術の回遊路
 後楽園から出石町・天神町を経て旭川堤防の入口・西の丸・石山の文化と芸術の魅力あふれる回遊路。

水と緑の回遊路
 出石町から岡山城へ、旭川堤防公園、鳥居公園の緑と爽やかな開放感と爽快感あふれる水と緑の回遊路。

城と歴史の回遊路
 西の丸から本丸御手まで城の主要部をたどり、月見橋を渡って後楽園へ、岡山城の魅力あふれる回遊路。

【歴史体験ゾーン】岡山城本丸
 岡山城の中核となる郭。天守閣を中心に、最も「岡山城らしさ」を感じさせる空間づくり。城の魅力と文化財価値の向上
○史跡整備
 下の段（テニスコート跡）の整備事業の着実な実施。
○天守閣の復元、城郭建築の復元
 城郭建築（門、櫓など）、天守閣の木造での忠実な復元は、市民を巻き込んだ議論を行い、その結果をもとに将来的な課題として可能性を検討。

戦災焼失前の天守閣

城郭建築イメージ：左から太鼓櫓、内下馬門、大納戸櫓

【風致の維持】桜の馬場・東南の郭
 ほとんどが都市計画公園又は後楽園風致地区に指定されている本丸に隣接した地区の風致の維持継続。

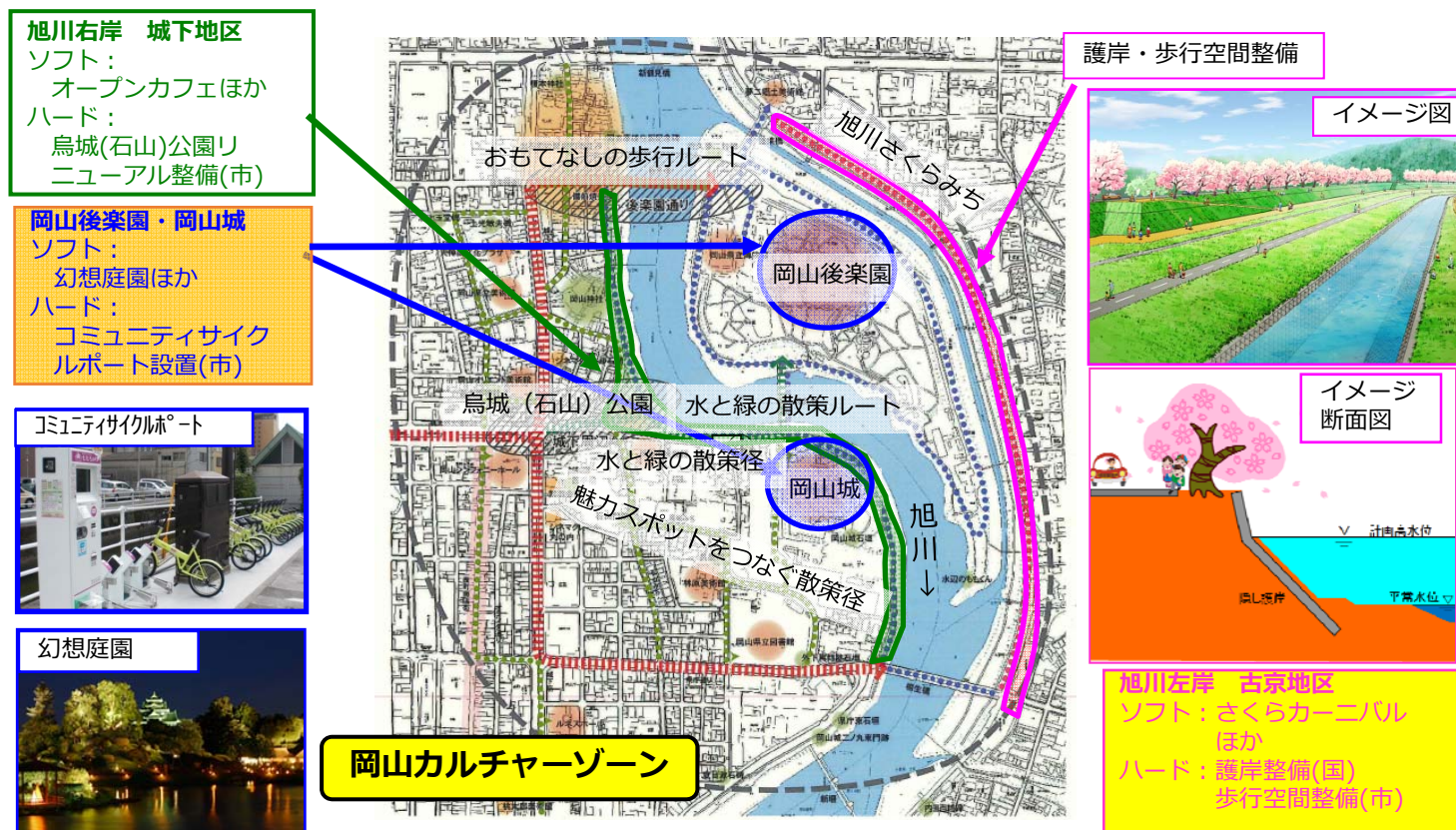
【景観の保全】主に岡山城主要部内
 岡山城内にふさわしい景観の保全。
○天守閣からの眺望と天守閣・櫓の眺望の保全
 眺望を妨げている要因（電柱電線、樹木植栽、建造物など）の検証とその対応策を検討。
○城内にふさわしい景観の保全
 景観保全のための環境整備、建造物の規制・誘導策を検討。
○城内にふさわしい建築物・工作物のあり方
 各種工作物（石碑・案内看板・標識等）、建築物等（管理施設・便利施設・橋梁等）のあり方を検討。

【城郭遺構の保護】岡山城主要部内
 遺構が良好に遺存している箇所や新たに遺構が発見された箇所は、その保護措置を検討。

【構想の推進】
 ①庁内の体制づくり
 ②市民協働による事業の推進
 ③まちづくり機運の醸成

旭川かわまちづくり計画（国、岡山市）平成25年3月

- 旭川の堤防沿いは花見の時期には毎年10万人前後が訪れる、中国地方有数の桜の名所となっている。
- 近年は老木化が進んでおり、「旭川さくらみちの桜を守る会」が設立され、募金による延命治療等が行われているが、抜本的には計画的な植替えが必要であり、現在の堤防構造では植樹基準に適合しない状況が問題となっている。
- 桜並木を保全し、歩行環境の改善を図るため、「旭川かわまちづくり計画」を策定し、国・市が連携して護岸及び歩行空間の整備を行っているところである。



河川敷地の占用に関する規制緩和の経緯

河川敷地占用における占用主体は、公共性、公益性を有する者等に限定されてきたところだが、河川敷地を賑わいのある水辺空間等として活用したいという要望等を踏まえ、営業活動を行う事業者等による都市及び地域の再生等に資する河川敷地の利用を実現可能とするため規制緩和が行われ、オープンカフェ等の取組みが全国に展開中。

河川占用許可準則（平成11年8月改正）

全国の河川

占用施設

公園、運動場、橋梁、送電線等の公共性又は公益性のある施設

【岡山市】百間川 公園



【岡山市】百間川 運動場



占用主体

地方公共団体、
公益事業者等の公的主体

特例措置（平成16年3月通知）

8河川で社会実験

占用施設

左記施設に加え、

- ①広場、イベント施設等
（これらと一体をなす
飲食店、オープンカフェ、
広告板、広告柱、
照明・音響施設、
バーベキュー場等）

- ②日よけ、船上食事施設、突出看板

【広島市】京橋川 オープンカフェ



占用主体

- ①の施設は、公的主体
- ②の施設は、公的主体又は**民間事業者**

河川占用許可準則（平成23年3月改正）

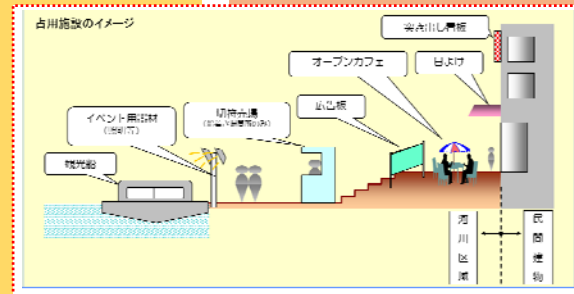
全国の河川

占用施設

左記施設と同じ

- ①同左

- ②同左



【東京都】隅田川 オープンカフェ



占用主体

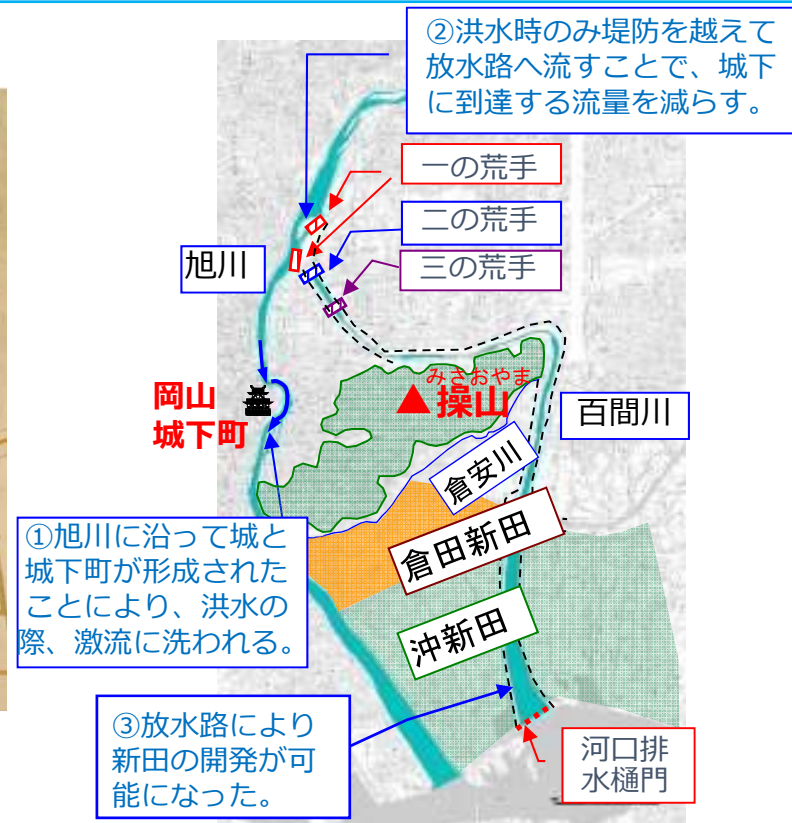
- ①②の施設の区別なく、
公的主体又は**民間事業者**

旭川の治水の歴史と岡山市街地の発展

- 江戸時代の岡山城築造当時、旭川は幾重にも分流していたが、その一本を活かして旭川本流とし、その他の河道を堀とした。旭川に沿って城と城下町が形成されたことにより、洪水により度々甚大な被害がもたらされた。
- 1654年の大洪水を受けて考案されたのが、熊沢蕃山による「川除けの法」である。その後、津田永忠が「川除けの法」をもとに、治水と新田開発の両立を目指して、旭川放水路として百間川改修の指揮をとった。百間川の概成により城下町への洪水被害が軽減されたことを受け、後楽園の築庭に着手し、1700年に完成した。
- 旭川の治水の歴史と岡山後楽園・岡山城を含む市街地形成とは密接な関係にある。



江戸時代の旭川の流れ



津田永忠像
(津田永忠顕彰会設置)

かつての旭川における水辺のにぎわい

- 旭川の利用については、江戸時代の高瀬舟に始まり、昭和はじめ頃にも沿川の産業への原材料運搬や河口から市内（京橋）への定期航路として使用されていた。古くから京橋付近は問屋や商店街が形成され、賑いを見せていたが、陸上交通機関の発達などにより次第に舟運の姿は消え、水辺のにぎわいも失われた。
- かつてのにぎわいをとりもどすため、市民の手によって月に一度の「京橋朝市」が開催され、水辺のにぎわい再生の取り組みとして定着している。



昭和5年京橋船着場の風景

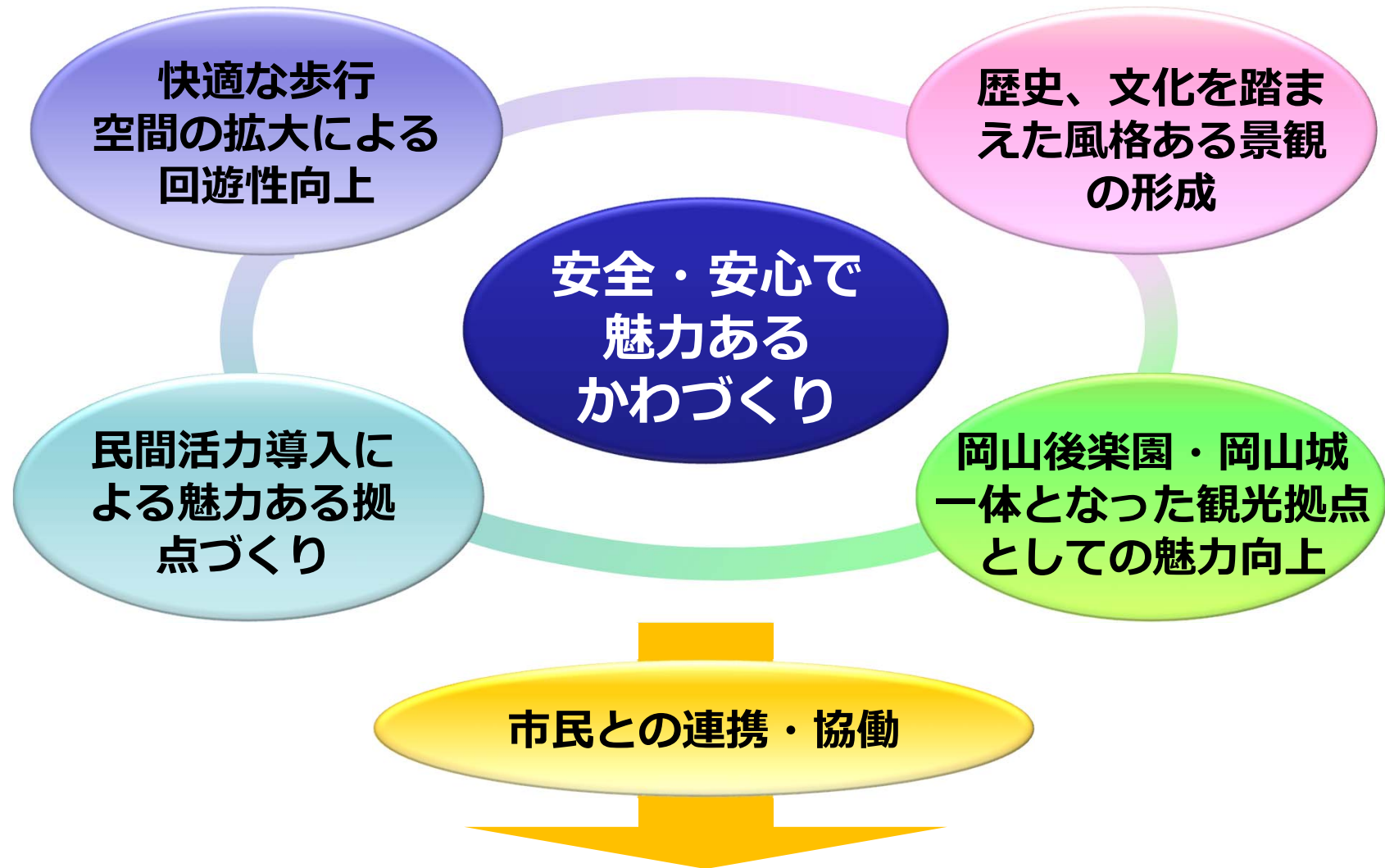


現在の京橋朝市のにぎわい



航路維持のためのケレップ水制

旭川水辺空間再生の方向性（案）



安全・安心な市民の憩いの空間、岡山後楽園・岡山城と一体となった魅力ある観光空間としての旭川の再生へ！

想定される旭川水辺空間の回遊ルート

